

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	八女総合療育館		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 1日		～ R8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R7年 12月 1日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	R7年 12月 1日		～ R8年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種による専門支店での訪問支援	普段個別支援を行っている各専門職のリハビリの先生が訪問を行うことで日頃の支援状況を踏まえた一貫性のある助言・支援を実施している。	多職種による専門的支援の質向上を図るため、職種間での情報共有やケース検討の機会を充実させる。
2	日常支援と連動した具体的な助言	事業所での関りを基に、保育所等の実際の場面に即した具体的な実践的な支援方法の提案が可能となっている。	訪問先のニーズに応じた具体的な実践的な助言が行えるよう、支援内容の振り返りや共有を行い、支援の精度向上に務める。
3	継続的なかわりによる支援の一貫性	通所支援と訪問支援を一体的に行うことで、児童に対する理解を深め、環境間で一貫した支援を提供している。	通所支援と訪問支援の連携をより強化して児童に対する一貫した支援が提供できる体制の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先との情報のさらなる充実	訪問の助言内容については共有を行っているが、より継続的かつ双方向の情報共有体制の強化が求められる。	訪問先との定期的な情報共有の機会を確保し、支援内容の一貫性を高める。
2	訪問機会・頻度の調整	利用児童や訪問先の状況により、訪問のタイミングや頻度の調整に課題が生じる場合がある。	訪問計画の見直しを行い、より効果的なタイミングでの支援実施を図る。
3	支援内容と見える化の強化	訪問で得られた情報や助言内容について、関係者間での共有や蓄積方法において、さらなる工夫の余地がある。	記録や報告方法を整理し、関係者間での情報共有および活用を強化する。